

稲嶺氏当確

辺野古移設に

名護市長選、末松氏下す



名護市長選挙で再選を確実にして万歳する稲嶺進氏(中央) 19日午後9時41分、名護市大中の選挙事務所

【名護市長選取材班】米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設問題が最大の争点となった名護市長選は19日投票開票され、移設の阻止を掲げた無所属現職の稲嶺進氏(68)が当選を確実にし、移設推進を打ち出した無所属新人の末松文信氏(65)が自民推薦との一騎打ちを制した。日米両政府が推進する辺野古移設計画は、市長権限を最大限に行使して阻止すると明言する稲嶺氏の再選で、実現は極めて困難になった。

稲嶺氏は1期目から「海にも陸にも基地は造らせない」と主張今回の選挙戦では「自然を守るため、未来の子どものために」と新たな基地建設の反対を訴えた。6次産業化の推進や教育・福祉面での施策など4年間の実績もアピールし、保守層の一部や無党派層からも幅広い支持を集めた。

末松氏は政府・自民党本部、仲井真弘多知事の支援を得て、移設推進に伴う再編交付金や北部振興事業の獲得・増額による市民福祉向上を訴えたが、届かなかった。